

## 蜜蝋で環境配慮のラップ作り

年 組 名前

環境に配慮した「みつろうラップ」を作る <sup>もよお</sup> 催しが、伊那市西箕輪の産学官 <sup>いなしにしみのわ</sup> 連携拠点「inadani sees（いなだにしーず）」で開かれました。だれが、どんな願いで <sup>きかく</sup> 企画したのか、記事を読んでみましょう。

①催しは、だれが <sup>しゅさい</sup> 主宰する、何という <sup>だんたい</sup> 団体が企画しましたか。

主宰—

団体名—

②みつろうラップの特長は何ですか。（ ）に入る言葉を書きましょう。

食器などを <sup>おお</sup> 覆う食品 <sup>ほぞん</sup> 保存用のラップとして、（ ）すれば（ ）も使えるため、（ ）の <sup>さくげん</sup> 削減になる。

③作り方を <sup>かいせつ</sup> 解説した <sup>ひらがゆうこ</sup> 平賀裕子さんは、何と言って活用を <sup>よ</sup> 呼びかけましたか。

④参加者は、具体的にどうやってみつろうラップを作りましたか。

⑤あなたの住む <sup>ちいき</sup> 地域で、環境問題に取り組んでいる活動はありますか。調べてみましょう。

## 蜜蠟で環境配慮のラップ作り 伊那で催し 布にコーティング

布を蜜蠟みつろうでコーティングした「ミツロウラップ」を作る



ミツロウラップを作る参加者ら

催しが26日、伊那市西箕輪の産学官連携拠点「inadani sees（いなだにしーず）」で開かれた。市内外の8人が蜜蠟から漂う甘い香りを楽しみながら、さまざまな柄の布をラップに仕上げた。楽しんだ。

催しは、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）削減を任務にしている市地域おこし協力隊員の堤耀子さん

（31）主宰の「暮らしの循環実験室」が企画。食器などを覆う食品保存用のラップとして、水洗いすれば何度も使えるため、プラスチックごみの削減に向けた選択肢にしてほしいと聞いた。

この日は、市内でオーガニック生活雑貨店「ワイルドツリー」を営む平賀裕子さん（60）が作り方を解説。実際に削減できるごみの量はわずかでも、「気に入ったものを使うことで自分をご機嫌になるし、意識が変わっていくことが大事」と活用を呼びかけた。

参加者は蜜蠟の粒をアイロンで溶かし、布の表面に薄くのばして丸形や四角形のラップにした。信州大農学部（南箕輪村）3年の清水希歩きほさん（20）は「思ったよりも簡単にできてびっくり。たくさん使いたい」と喜んでいった。

ちいき  
（2024年5月27日・地域面〈中南信〉）

年 組 名前

環境に配慮した「みつろうラップ」を作る催しが、伊那市西箕輪の産学官連携拠点「inadani sees（いなだにしーず）」で開かれました。だれが、どんな願いで企画したのか、記事を読んでみましょう。

①催しは、だれが主宰する、何という団体が企画しましたか。

主宰— 市地域おこし協力隊員の堤耀子さん

団体名— 暮らしの循環実験室

②みつろうラップの特長は何ですか。（ ）に入る言葉を書きましょう。

食器などを覆う食品保存用のラップとして、（ 水洗い ）すれば（ 何度 ）も使えるため、（ プラスチックごみ ）の削減になる。

③作り方を解説した平賀裕子さんは、何と言って活用を呼びかけましたか。

【答え】 気に入ったものを使うことで自分にご機嫌になるし、意識が変わっていくことが大事

④参加者は、具体的にどうやってみつろうラップを作りましたか。

【答え】 蜜蝋の粒をアイロンで溶かし、布の表面に薄くのばして丸形や四角形のラップにした

⑤あなたの住む地域で、環境問題に取り組んでいる活動はありますか。調べてみましょう。

【答え】 略